

あきる野市で見る春の訪れ



フクジュソウ
Adonis ramosa



カタクリ
Erithronium japonicum



セツブンソウ
Eranthis pinnatifida



シュンラン
Cymbidium goeringii

暖かい日と寒い日がかわるがわる訪れる今日この頃ですが、生き物たちは確実に春を感じ取っています。前号（Vol.9）で紹介したカエルの卵は孵化し、小さなオタマジャクシになりました。また、ウグイスはさえずりの練習を始めています。

動物だけではなく植物でも春の変化が見られ、ヤナギやサクラといった木々の花芽の膨らみを観察することができます。そして、林床では、木々の芽吹きより先に鮮やかな花を咲かす草花があります。カタクリやフクジュソウといった植物は春早々に花を咲かせ、昆虫を呼び寄せます。そして、他の植物が芽を出すころには花の時期を終えてしまいます。サクラの花見の前に可憐な草花を観察してみてはいかがでしょうか。

（佐々木）

協働で進める郷土の恵みの森づくり

菅生外周路整備（3月20日）



菅生地区の森には散策に適した道があります。ちょうど、あきる野市と青梅市との市境にある尾根道で、満地峠からニツ塚へと続きます。この道はハイキングなどの利用者が多いのですが、道標がまったくありませんでした。そのため、今回の整備で道標を13箇所設置しました。地元の町内会から約20名の参加をいただき、作業は手際よく迅速に終了しました。今後は菅生地区を周回できるよう尾根道を整備していく予定です。（佐々木）



隊長の日々 ～ サクラを楽しむ ～

今年も、寒い日が続きますが、もう春ですね。

山ではモミの新芽がキラキラと輝き、新しい葉が出始めています。広葉樹の芽もふくらみ始めました。例年なら、サクラ開花が話題になる頃でそろそろと気になる方もいるでしょう。サクラを良く見ると、花芽は確実に膨らんでいます。一般的に目にするのはソメイヨシノですが、1箇所から複数の花が咲き、花数が多く豪華に見えるので、江戸時代から花見の代名詞になってきました。この木は、寿命が60年程といわれ短命の樹木とされていますが、サクラはサクラで、本来は他のサクラとあまり変わらない寿命があるとも言われています。しかし、ソメイヨシノは花見のために植えられる樹種で、主に公園、街路樹などに利用されているた

め、人や車が木の周りの土を踏み固めて（踏圧）根の発育を阻害して樹勢が衰えて枯れるため、ソメイヨシノの寿命が短くなっているそうです。江戸時代に品種改良されたソメイヨシノですが、原野に植えられたソメイヨシノで樹齢が100年以上のものがあると聞いています。街路樹などで老齢木になったソメイヨシノで、樹勢が弱っている木をたびたび目にします。ここで簡単な診断法ですが、ソメイヨシノは1つの蕾にある花序から5～8つの花を咲かせます。しかし、樹勢が衰えてくると、1花序の花芽の数が減ります。1つの花芽に5つ以上の花があればその樹勢はすこぶる良好で3つ以下なら樹勢不良と判断します。この方法は、咲いてい

るサクラを見上げて、花数を数えるだけでサクラの状態がわかるので、花見のときにでも試してみてください。この花数は、ソメイヨシノのものです。種類・品種・生育条件によって花序の数は変わります。（杉野）



武蔵引田駅前のソメイヨシノ



トウキョウサンショウウオ（成体）

トウキョウサンショウウオはカエルと同じ両生類の仲間です。成体は全長約13cmで、目が大きく、胴が長いのが特徴です。幼生はカエルのおたまじやくしと同様に水中で成長します。成体、幼生ともに肉食性で水生昆虫やミズなどを食べます。

あきる野市（昭和6年多西村）の草花丘陵で田子勝彌氏によって確認されました。

トウキョウサンショウウオの産卵

3月9日、気温も上がりそろそろトウキョウサンショウウオが産卵するのではないかと気になり始め、調査に出かけました。水溜りには孵化したばかりの小さなオタマジャクシを多数確認。なかなかサンショウウオの卵のうを発見することができません。しかし、両生類好きのパブロレンジャーの目は違います！

泥と同化したバナナ状の卵のうをすかさず発見してしまいます。今回の調査で多くの卵のうを確認することができましたが、年々トウキョウサンショウウオの卵のう数は減少しています。トウキョウサンショウウオをあきる野市の自然環境保全活動の象徴とし、郷土の恵みの森づくりに取り組んでいきます。

（佐々木）



左、トウキョウサンショウウオの卵のう

右、水たまりにいたトウキョウサンショウウオの成体